

ふんぽりし

白山市国際交流協会 Hakusan International Association

No.30

2020年10月発行

コロナ禍の友好都市レポートで交流



静岡県藤枝市からのレポート (7月3日) リポーター：藤枝市広域連携課の皆さん

全国の緊急事態宣言が解除されてから約1か月半が経ち、少しずつ街は活気を取り戻していますが、三密を防ぎ、感染予防を行うなど、新しい生活様式を取り入れながら過ごしています。

そんな中、うれしいニュースがありました。藤枝市には、かつて東海道「藤枝宿」「岡部宿」と2つの宿場があり、多くの人が行き交う街として栄え、現在も様々な文化財があります。

6月19日、藤枝市と近隣の静岡市にまたがる「東海道」に関連する文化遺産や伝承、風景などをひとつなぎにしたストーリーが、文化庁より「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定されました。(中略)

藤枝市は歴史文化も深いまちですが、年間を通して様々な花を楽しめるまちです。雨の日が多いですが、今は、紫陽花がきれいに咲いています。1日も早く新型コロナウイルス感染症が終息すること、また、白山市の皆さんのご健康をお祈りしています。

(写真左) 藤枝市役所広域連携課職員の方

(右上) 日本遺産認定の文化資源である岡部宿大旅籠柏屋

(右下) 花のまち藤枝市に咲く紫陽花

コロナ禍の現在、国際交流がモットーとしている“人と人の交流”には大きな制限・制約があります。このようなパンデミック (世界大流行) の中、“国内外の親善友好都市 (以下、友好都市) の皆さんと励まし合おう、ともに頑張ろう”との思いから、今年4月に市のホームページ『コロナ禍の友好都市レポート』サイトを立ち上げ、公開しています。これは、春にイギリス・ボストン町の担当者から、メッセージとともに、かつて旧美川町訪問団が現地にて植樹した際の桜が満開になっている写真が送られてきたことがきっかけです。現在6都市からレポートが定期的に届いており、コロナ禍の各地の様子が理解できます。ぜひ、ご覧ください。

C・O・N・T・E・N・T・S

- 特集 コロナ禍の友好都市レポート 1 ~ 3
- 国際交流サロンのページ 4 ~ 5
- H.I.A. だより 6 ~ 7
- H.I.A. からのお知らせ 8

特集

友好都市の直近のレポート（抜粋）を紹介しします。各都市のコロナ禍の状況や取り組み、各都市のニュースを紹介することで、友好都市のつながりを感じてもらうとともに、「コロナに負けず、ともに頑張ろう！」のメッセージとなることを願います。



市のホームページ「コロナ禍の友好都市レポート」で全文をご覧ください。こちらから→



オーストラリア・ペンリス市

リポーター：尚美サリバンさん（ペンリスハイスクール日本語教師）

ペンリス市のあるニューサウスウェールズ州は毎日十数名の感染者が出ています。緊急事態宣言は出ていませんが、色々規制があります。オーストラリアでは、マスクをつける習慣がなく、また、義務付けられていませんので、ペンリス周辺では20%くらいの人しかマスクをつけていません。教育現場でも色々な規制が出されていますが、学校は開校していて、生徒は毎日通学しています。学校で感染者が出ると、数日学校閉鎖になりますので、ペンリスハイスクールでも生徒たち自ら、徹底的に教室の消毒作業を行いながら、学校生活を送っています。（8月31日）



▲ペンリスハイスクールでは、授業でキッチンペーパーのマスクを作り、着用を呼び掛けている。



中国・瀋陽（りつよう）市

リポーター：管 莉（かん り）さん（瀋陽市職員）

あっという間に2020年も3分の2が過ぎました。瀋陽市は徐々に普通の生活に戻ってきました。暑さはだんだんと和らぎ、秋風が吹いて、学校は新学期を迎えました。瀋陽市では新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いてきましたが、生徒一人ひとりが安全に学校に通えるよう、学校は例年より早めに新学期の準備を始めました。教室や特別教室など、生徒たちが活動する場所はもちろん、校内の消毒作業は毎日行われています。生徒たち自身もマスクを自分で持ってきていますが、特殊な状況が無ければ、校内で着ける必要はありません。（9月3日）



▲感染症対策をとりながら学校は新学期が始まりました。



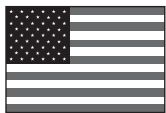
ドイツ・ラウンハイム市

リポーター：イェンス・グローデさん（ラウンハイム市職員）

ドイツの新型コロナウイルスの基本的な政策は全土に適用されますが、詳細な対策については、各自治体によって決められています。同市役所では、職員個人のワークスペースに透明なパネルが設置されており、その中であればマスクを自由に外すことができます。市役所を訪れる市民は、名前と連絡先の記入、手の消毒をする必要があります。パンデミックによる営業は、サービス業が盛んな同市を含むライン・マイン地方に深刻な影響を与えました。時短営業は1年を通して適用される見通しで、その間、従業員は仕事が減らされるか、場合によっては全くないケースもあります。時短営業により給料は、最初の3か月間は67%に減（子どもがいない家庭は60%）、4か月目からは77%（同70%）、そして7か月目からは87%（同80%）という段階的な措置をとっています。これと同時に、社会保障給付の申請も行っています。（9月4日）



▲同市の児童たちは、授業以外はマスクやフェイスガードの着用が義務付けられています。



アメリカ・コロンビア市

リポーター：マイケル・シドロスキさん（CPSサイエンスコーディネーター）
CPS: Columbia Public Schools コロンビア公立学校（教育委員会）

コロナウイルスによって教師と生徒たちの「日常」が崩壊する以前から、CPSサイエンス・オフィスは、市内の学校に、屋外で学ぶサイエンス学習スペース（青空教室）を整備してきました。屋外は、刺激が多いことから児童の創造力が高まる、集中できる、積極的に参加するなどの長所があります。現在、このパンデミックの中、ソーシャルディスタンスが取りやすいなど感染症拡大防止の面から、青空教室は、より迅速に、より多くの学校に強く求められるようになりました。同教室は、校庭に遊び場を造ることに比べると、非常に安いコストで出来ます。従来の校庭の遊び場整備の平均費用が約300万円なのに対して、同じ面積の青空教室は約25万円ほどです。教職員や児童生徒、地域のボランティアの協力によって、また、古い廃材をリサイクルしているため、費用を安く抑えることが出来ます。今回のパンデミックによって教育の混乱はあったものの、この危機をきっかけに、コロナ収束後も児童たちにとってメリットのある素晴らしい学びの場ができたことは、一つのプラスだと考えています。（9月6日）



▲子ども達がか中で遊んだり、リラックスしたり、本を読んだりするクラブハウス。古い木材の電柱を支柱に活用。



▲創造力や好奇心を育む様々な要素を各所に配置しています。



▲児童生徒や教職員、地域のボランティアがサイエンス・オフィスと連携して“青空教室”を制作中です。

「国と国の交流から人と人の交流へ」

国際交流協会会長 福田^{ひろし} 裕

今年、中国の武漢で一人の人間が罹ってしまったウイルスによる感染症が、3ヶ月位の間に全世界に広がってしまいました。2020年9月6日現在、世界全体で2600万人以上の人々が感染し、87万人の人々が死亡しています。そして感染拡大は今も止まっていないのです。全世界にはいろいろな人たちが居ます。人種別、国別、言語別、習慣の違い、文化の違い、色々違います。しかしウイルスはその違いを超えて急襲しているのです。人は解明できないものに対して恐れを感じ、恐れは不安を増長します。そして死を意識したときに恐怖を覚えます。寒くなると流行するインフルエンザのようなものという位置づけが出来れば、底知れない漠然とした不安は解消されるかも知れません。

白山市には国内外に6つの友好都市があります。相互訪問交流を長年にわたり実施して来ましたが、今年度予定していたものはほぼ全滅です。相手を目の前にして、握手して、ハグして、言葉を交わして、五感で、いや六感も含めての交流が一番分かりあえることなのですが、今はそれは難しいことです。去年の秋にコロンビア市やペンリス市の公式訪問団を続けて本市に迎え、ハグをして再会を喜び合い、同じ空気を共有して交流したことが懐かしく思い出されます。

今年は、市や協会の事務局職員及び会員の皆さんがインターネットなどで、切れ目のない交流を続けています。新型コロナウイルスの感染拡大は、3ヶ月位の短期間に世界に拡がりました。利害を超えた共通の考え方や思いが、コロナウイルスのようなスピードで広まり、世界平和につながるようなことにはならないのでしょうか。早々のうちに治療薬が出来て、各国との交流が以前より活発になり、人と人の交流に発展することを祈らずには居られません。



▲昨年秋に来市したコロンビア市訪問団員と福田会長（左）



“サロンのページ”

白山市国際交流サロン利用ガイド

開館時間 9:15～18:00
 休館日 月曜日（月曜日が祝日でも休館）
 場所 〒924-0872 白山市古城町2（松任文化会館カルチャー棟2階）
 TEL/FAX 076-274-3371
 E-mail misalon@asagaotv.ne.jp
 HP <http://www.asagaotv.ne.jp/~misalon/index.html>



サロンFacebook QRコード

Facebookで、サロンの様子をアップしています！

「白山市国際交流サロンHIA」で検索もしくは右のQRコードよりご覧ください！

日本語部会

最近の日本語クラス

「熱を測りますね。」コロナ前までは使ったこともなかった非接触型体温計での検温と手の消毒！まずはコロナ対策をしっかり！！

土日クラスは、以前は1クラス10人以上にもなることがあり、ワイワイ、ガヤガヤ…でしたが、今は1クラス5人の予約制となり、じっくり、ゆったり…。これがコロナ禍での新しいクラススタイルです。

7月の日本語能力試験が中止となり、やる気をなくしていた人たちも12月の試験に向けてまたやる気スイッチがONになった人も。「仕事が少なくなり、時間があるから勉強を頑張る。」とポジティブな言葉に刺激を受けます。

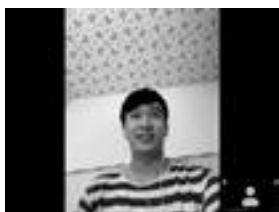
今年度初めての日本語部会定例会が9月12日に行われクラスの様子などお話しました。20代、30代の若い日本語サポーターが増えたことはうれしいお知らせです。Zoomでの日本語教室も依頼があれば行っていきたいこと、これも新しいクラススタイルです。

国際理解部会

オンラインでベトナムとインドネシアへ行こう！

7月25日(土)

サロンの日本語サポーターで、現在は海外で日本語教師として活躍している竹本裕・裕美さん夫妻（ベトナム在住）と牧畠晴香さん（インドネシア在住）の3名が、Zoomでベトナムとインドネシアの“今”を話しました。なかなか海外に行けない中、ベトナムやインドネシアの素敵な街並みや美味しそうな食べ物を紹介してもらい、参加者の皆さんは旅行気分を味わうことができました。また、コロナ禍における両国の暮らしやそれぞれの日本語学校の生徒たちの様子を聞き、日本との違いに驚いていました。懐かしい方々をとっても身近に感じることができ、コロナ禍だからこそその交流となりました。



▲今春ベトナムに帰国したトゥアンさんも急ぎょ参加！とても盛り上がりました。



▲当日はZoom参加の方もおり、併せて24名が参加しました。

交流型日本語教室「わいわいカフェ」8月28日(金)

3ヶ月ぶりの「わいわいカフェ」を開催しました。わいわいカフェは、毎回テーマを決めて、日本語での会話を楽しむ交流型の日本語クラスです。この日のテーマは、「風呂敷」です。当日は、タイ出身の主婦の方、3名が参加して、風呂敷の使い方を学びました。日本の風呂敷は、とても便利と外国人の皆さんに人気です。

早速、実習生も挑戦しました。次回のわいわいカフェ（平日版）は、10月30日（金）です。テーマは、「日本のゲーム」です。日本語サポーターさんも募集しています。



▲風呂敷でバッグを作りました。

市内放課後児童クラブで外国文化サポーターが大活躍！

明光小学校ピノキオクラブ 7月11日(土)

ベトナム出身のズンさんご家族が講師となり、子どもたちと一緒にベトナムの生春巻きとお団子を作りました。参加した子どもたちは楽しそうにお団子を丸めたり、生春巻きの中に好きな具材を入れてくるくる巻いたりし、上手に作る事ができました。



▲生春巻きの作り方に興味津々の子どもたち

北陽イルカペンギンクラブ 8月18日(火)

台湾出身の夏秋香さんとベトナム出身のズオンさん、チュホンさんが講師となり、両国の文化を紹介しました。子どもたちはベトナムや台湾のジャンケンや簡単なベトナム語、中国語にも挑戦したほか、用意してもらったゲームで夢中になって遊んでいました。



▲ベトナム出身のズオンさんは、民族衣装のアオザイを着用して参加

共生交流部会

白峰ガイドツアーを開催

9月13日(日)

外国人を対象とした白峰地域のツアーを実施し、ベトナムと中国の学習者 17 名が参加しました。当日は白山ろく民俗資料館で“オバル染め”のハンカチを作った後、白山しらみね自然学校の山口隆さんのガイドで白峰の街並みを散策しました。全員が初めての白峰でしたが、「ふるさとに似ている」「自然が多くて落ち着く」と、山ろくの雰囲気癒されました。

また、ガイドの山口さんから集落のお寺や道路、400年以上も前の家の造りなどを聞き、山ろくの人々の暮らしについて理解を深めました。



▲「菜さい」前でみんなで白山ポーズ!

Happy News!!

前号の友達の輪に掲載されたベトナム出身で市内在住のチュックさんから、「赤ちゃんが生まれました!」のうれしいニュースが届きました。おめでとうございます!!



▲チュックさんと柚美ちゃん(右、日本人のご主人)。

私は白山市に住んで1年2ヶ月になります。6月に長女の柚美(ゆみ)が誕生しました。出産した病院の医師や看護師の方がとても親切に育て方を教えてくれ、私は子育ての自信ができました。主人やお義母さんもたくさん助けてくれ、とても幸せです。柚美はとても素直で可愛いです。私は家族を愛しています。

友だちの輪 (外国人市民を紹介するコーナーです)

マイ・スアン・レーさん (28歳、ベトナム出身、福留町在住)

2017年6月14日、日本に来日しました。あっという間に3年間が立ちました。日本に来たばかりの頃、本当に困る事が多いし、私の思っていたことと全然違いました。なぜなら、日本の法律も全く分からないし、特に交通ルールです。日本の交通で乗り物が左側を走りますが、ベトナムでは右側です。つまり、逆走という事です。それで来日したばかりは、何回も自転車で交通違反しました。そればかりか日本語が分からない私は本当に困り、会社の仕事で分からない時も、日本語であまり話せませんでした。日本に来る前にベトナムの日本語学校で8カ月間、日本語を勉強しましたが、日本語がわからない理由は为什么呢。日本語の教科書は日常会話と全然違います。日本語が理解できますように私は一生懸命日本語を勉強して、去年、日本語能力試験2級に合格しました。私は日本に来る目標が叶えて、親の家を修理でき、日本語能力も手に入れたし、嬉しいです。三年だけではなく今後もよろしくお願いいたします。

※石川地区の日本語交流カフェに毎回参加するレーさんは、3年間の技能実習生を終え、12月からは「特定技能」(昨年4月創設の新在留資格)に切り替え、さらに長く白山市で働くことが決まりました。



多文化共生 子育てママ交流会

8月19日(水)

サロンで妊娠中の学習者や、外国人ママたちが増える中、母国との習慣や文化の違い、日本語の不自由さによる育児の悩みを話す場として、「子育てママ交流会」を開催しました。当日は外国人ママ6名、日本人ママ1名が参加し、「保育園・幼稚園・こども園の違いが分からない」「担任に自分の思いを上手く伝えられない」といった声や、子どもの日本語教育に関する不安や悩みについて話し合いました。

また、今回はオブザーバーとしてフィリピン出身で白山市在住28年の岡本マイラさんにも参加してもらい、長男の宿題が教えられず困った時、日本人ママが助けてくれたことなど、ご自身の子育ての経験談を紹介しました。

今後も「くれよんカフェ」として外国人ママ対象の交流会を開催予定です。日本人のママの参加も大歓迎です!



▲参加者の皆さん。市外から参加して下さった外国人ママもいました。



▲2歳児のいやいや期の悩みには、「分かる!」と共感する場面も。

外国人児童生徒等教育アドバイザー講演会

8月20日(木)

外国人住民の増加とともに、日本語学習の支援が必要な外国籍等の児童が増えてきています。本市では、市内小中学校からの依頼を受けて、国際交流協会の日本語部会員等の協力で子ども日本語サポートを行っていることから、このたび、文部科学省の派遣事業として、上越教育大学大学院の原瑞穂先生より、地域の実情等を踏まえた日本語指導や支援などについて、ご講演いただきました。

コロナウイルス感染症対策としてオンライン形式で開催したところ、当日は、サポーターや学校関係者など28名が参加し、外国人児童生徒等を取り巻く状況やそれに対応した教育制度の現状、実例に基づいた日本語支援の進め方などについて、原先生の講話に熱心に聞き入っていました。

市や協会では、今後も、子ども日本語サポートに関する研修会を定期的に開催していく予定です。



▲会場の様子(オンラインとの併用)



▲オンライン画面の様子

白山石川ロータリークラブ交換留学生が市長表敬

6月26日(金)

白山石川ロータリークラブの交換留学生で、1年間本市で滞在したりヴァイ・ハウザーさんと昨年の夏にアメリカ・ニューヨーク州に派遣され、コロナ禍の影響を受け3月に緊急帰国した越野蒼梨(こしのあおり)さんのお二人が市長表敬を行いました。

お二人は、ともにコロナ感染症拡大の影響を受け、制限がある中での留学となりましたが、リヴァイさんは、「本当に日本が好きになりました。またいつか戻ってくることを楽しみにしています。」と上手になった日本語で挨拶しました。越野さんは、「(コロナ禍で) やむを得ず帰国となりとても残念でしたが、楽しかった事も悔しかった事も含めてすべて良い経験でした。」とそれぞれ貴重な体験を山田市長に報告しました。



▲留学の様子を報告するリヴァイ・ハウザーさん(右から2番目)と越野蒼梨さん

「尾口のでくまわし」英語紙芝居YouTubeで公開中!

本市の国重要無形民俗文化財の人形浄瑠璃「尾口のでくまわし」を世界に発信するため、演目の1つである「酒呑童子」を紹介する英語動画が完成しました。姉妹都市の米国コロンビア市にゆかりのあるマーティン・ホルマン氏が3演目の英訳を完成させたのがきっかけです。動画では、ダニエル・ヘリオット国際交流員とスーザン・メイ白山手取川ジオパーク推進協議会専門員の二人が、でくまわしの歴史や「でく」と呼ばれる人形の作りについて楽しく掛け合いながら紹介しています。後半は、金城大学短期大学部のガート・ウエスタハウト教授が演目を紙芝居でユーモアたっぷりに読み聞かせています。残りの2演目についても今年度中の完成を目指し、現在撮影を進めています。

「酒呑童子」(日本語字幕、英語字幕あり)は白山市公式YouTubeチャンネルにて公開しています。



▲撮影の様子(東二口歴史民俗資料館にて)



▲「酒呑童子」日本語字幕動画は、こちらからご覧になれます。

市多文化共生のまちづくり推進指針策定のためワークショップと理事会を開催

外国人住民の増加を背景に、市では10月1日、「白山市多文化共生のまちづくり推進指針」を策定しました。

策定にあたり、協会では、7月12日、外国人住民と町内会長等日本人住民の声を届けるため、双方の住民ら25人が集まって多文化共生ワークショップを開催しました。同ワークショップでは、外国人から「ごみの分別が難しい」、「もしルールやマナーが守られていなかったら、その時に、直接言ってほしい」等という意見が出され、ともに暮らしやすいまちについて一緒に考える機会となりました。協会では、これまで「国際交流サロン」で日本語教室や交流イベントを幅広く行っているほか、昨年からは生活相談の窓口として年間200件以上の相談が寄せられるなど、今後、市の推進指針の具体的な取組みの中で当協会の役割が一層期待されています。



▲外国人住民も日本人住民も参加して行われた多文化共生ワークショップ(7月12日)



▲市が提示した推進指針(素案)についての意見聴取として開催された臨時理事会(8月4日)



ホームステイ交流OBコーナー

市では親善友好都市3都市と中学生・高校生を対象にホームステイ交流を行っています。(2020年はコロナ禍で中止)本コーナーでは、かつてホームステイ交流事業に参加したOB・OG皆さんからのお便りを紹介しています。

ふじた みよこ

藤田 実代子さん(石同新町)

1992年(平成4年)第2回米国コロンビア市中学生派遣事業に参加。2003年4月より中学校教諭として笠間、松任中学校等で勤務。今年4月から石川県教員総合研修センター指導主事

「今につながる原点」

中学2年の夏に第2回コロンビア市中学生派遣プログラムに参加させていただいたこと。ここが私の原点です。このとき得た「世界は一つ、同じ地球市民」という感動が、今につながる土台となっていると確信しています。多くの人のHospitality(ホスピタリティ)に支えられたこの旅では、体験すること全てが感動でした。一方で、解けない問いもたくさん持って帰国しました。「日本文化の良さは」と尋ねられ、満身に答えられないことが歯がゆく、自国の歴史や文化に無自覚なままではいけないと思われました。このことがきっかけで、自国の歴史や文化を知ること国際人として必要不可欠な視点だと思うようになり、解けない問いに答えるべく、大学では日本文学を学びました。そして自分の学びを子ども達に伝えるため、教育に携わる道を選びました。国際人として活躍できる子ども達を育てる方策を模索する中で、ESD*の考えと出会えたことは、自分自身の視野を広げることにつながりました。

2014年にはフルブライトESD日米教員交流プログラムに参加しました。米国各地の教育現場を視察し、日米教員でディスカッションした上で生徒同士の交流も交えながら共同研究を行いました。持続可能な世界をテーマとして百年後の地球のことを共に考え、日本と米国の各地から一つの共同プロジェクトを一年間かけて達成できたときには感慨深いものがありました。また、このときの米国視察で、キング牧師が演説した「I have a dream」の地点に再び立ったことも忘れられません。同じ地点から14歳のときに見た世界と22年後に見ている世界。視点や視野がずいぶん広がったと感じると同時に、「中学生」をホームステイさせるという先進的な取組を支えていた当時の大人たちから私たちに寄せられていた願いをしみじみ感じました。「教育は100年の計」と言われますが、そういう願いが連綿とつながっていくのだと思いました。

2018年夏にはJICAの教師海外研修に参加し、サモアを訪れました。先進国という立場からしか世界を見ていないと気づき、途上国という立場から日本の生活を捉えなおしてみたいと思ったからです。青年海外協力隊員の活動の現場や現地家庭でのホームステイでは衝撃的な出来事ばかりでした。しかし、電気や車やお金がなくても、家族や愛情に幸せを感じながら生きているたくさんの人たちと出会いました。日本をいったん離れ、視座を変えて太平洋の真ん中の小さな島から世界を見つめてみると、最終的には人としての生き方・在り方に立ち戻るような気がしました。

Hospitality(ホスピタリティ)やRespect(リスペクト)を持ち、同じ地球に暮らす人としてそれぞれの良さや幸せを分かり合うこと。同じ時代を同じ地球の上で生きている人として分かち合うこと。今、SDGsに携わりながら、そんなことを大事にしながら生きていきたいと思っています。中学2年の夏のホームステイは、世界を理解するための視点・視野・視座を築く原点だったと思っています。

(*ESD: Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育)



▲1992年コロンビア市のホストファミリーと



▲フルブライトESDプログラム「食チーム」右からお二人目が藤田さん(2014年)



▲学校図書館で国語の授業を実践する藤田さん(松任中、2017年)

◎派遣生OBの皆さんからの投稿をお待ちしています。市役所国際交流室 toshikouryu@city.hakusan.lg.jpまで。

H.I.A.からのお知らせ

国際交流サロン

LINE公式アカウントはじめました！

サロンから楽しいイベント(世界の料理教室、ハロウィンイベント、国際交流の集いなど)や協会からのお知らせを配信します。ぜひご登録をください！

〈登録方法〉

- ①右のQRコードを読み取り、「追加」ボタンを押してください。
- ②「友だち追加」の「ID検索」より、**@805wfn**と入力してください。



【国際理解講座】

「世界の人々にやさしい 食のバリアフリー」

白山市で外国人住民の多国籍化が進む中、食の多様化(ハラル、ヴィーガン、ベジタリアンなど)も広がっています。世界の食のルールについて学んでみませんか。

日時：11月20日(金)午後1時30分～午後3時

会場：国際交流サロン

講師：菊地 代緒恵

(1.2.3Labo 代表・料理研究家)

定員：20名(先着順、要申し込み)

参加料：無料

申し込み締切：11月13日(金)

申し込み・問い合わせ：

白山市国際交流サロン(274-3371)



ダニエル国際交流員4年目のごあいさつ

本市のダニエル・ヘリオット国際交流員は今年の夏に離任予定でしたが、コロナ禍の影響で、もう1年再任用となりました。白山市の自然が大好きという同交流員の一層の活躍が期待されます。毎週水曜日午後のサロンdeトークも人気です。

こんにちは、国際交流員のダニエルです。もう1年白山市で働くことになりましたので、皆さん引き続きよろしくお願いいたします。白山市に来てからあっという間に3年が経ち、素晴らしい経験をたくさんさせていただきました。「白山市には何も無いよ」とよく市民の方には言われますが、美味しい水、山と海の幸、そして雄大な大自然もあり、恵まれている地域としか思えません。

コロナ禍によって様々な業界が打撃を受けており、国際交流も決して例外ではありません。でも順風満帆の時よりも、絶望的な状況に陥られたときこそ人間の先天的な適応力が発揮されると思います。今まで考えもしなかったインターネットや動画を通じた交流の形として現れ、前進するとともに、この新たな交流方法が磨かれ、アフターコロナでも活かせるものになると信じています。



「Dear Daniel (ディア・ダニエル)」でダニエルと文通しよう！

コロナ禍の交流として春にスタートした文通交流は会員の皆さんに静かに広がっています。ダニエルに聞きたいことを専用の用紙に記入しサロンに持って行くと、3日ほどでダニエルから手書きの返事が届きます！メッセージは日本語でも英語でも大丈夫です。昔ながらの文通を通してダニエルと交流してみませんか？

◇専用の用紙はサロンで受け取れます。

◇手紙の内容は、英語のアドバイスや母国イギリスのこと、人生のお悩み相談など何でもOK！

国際交流の集い2020

今年も開催予定です！【事前告知】

年末の恒例イベントである「国際交流の集い」を、今年はコロナ禍に配慮したスタイルで開催します。

なんと、松任文化会館大ホールを会場とし、お箏や日本語学習者の発表のほか、来場者が参加できるゲームなどを企画中です！

近くなりましたら、会員の皆様にご案内いたします。当日スタッフとしてのお手伝いを募集しています。また、ご意見、グッドアイデアをお持ちの方もお気軽にサロンまでお寄せください。

国際交流の集い2020

日時：12月20日(日) 14:00～15:30(予定)

場所：松任文化会館ピーノ 大ホール

*ソーシャルディスタンスを取りながら開催します。



募集の申込み・問い合わせ

国際交流サロン Tel. 274-3371

E-mail misalon@asagaotv.ne.jpまで

編集後記

コロナ禍の友好都市レポート、リモート会議にオンライン講演会とICTを駆使して、新しい交流スタイルを実践中です。しかし、どんなにテクノロジーが発達しても、「実体験」に優るものはないと、ホームステイ交流OGの藤田実代子さんの寄稿を読んで再認識。現地に赴き、そこで暮らす人々と出会い、同じ時間や空気を共有しあうことがどれほど大切なことか。五感をフルに使った経験は深く体に染み込み、その後の人生にも大きく影響します。コロナは当たり前であった日常の尊さを教えてくれています。(U)

発行 ■ 白山市国際交流協会 (Hakusan International Association)
事務局 / 白山市役所観光文化スポーツ部国際交流室
TEL 076-274-9520 FAX 076-274-9546
E-mail: toshikouryu@city.hakusan.lg.jp
白山市国際交流サロン
TEL・FAX 076-274-3371 E-mail: misalon@asagaotv.ne.jp